

歩道の舗装状況と歩道沿いの土地利用との関係

Relationship between the Pavement Structure and Land Use in the Paved Footpath

栗林 賢(地球科学専攻)

KURIBAYASHI Ken (Master's Program in Geosciences)

1. **目的:** 歩道の舗装にはブロック舗装やアスファルト舗装など様々な種類がある. 本研究では, つくば市中心部における歩道の舗装状況と歩道沿いの土地利用との関係を分析することを目的とする.
2. **対象地域:** 研究対象地域はつくばセンターを中心とする街区9つとする.
3. **手法:** 歩道の舗装が変わる境目でウェイポイントを取り, ウェイポイントとウェイポイントの間の舗装状況を記録した. 記録する際の要素は, 歩道の色とブロック舗装ならブロックの形, さらにその歩道沿いの土地利用とした.
4. **結果:** 駅周辺の歩道は長方形の赤や黄色といったブロックで舗装され, 商業施設の周辺では白色の正方形のブロック, 公共施設の周辺ではその他のアスファルトやブロックで舗装されていた. 施設の駐車場やコインパーキングといった自動車が通過する箇所には黒のアスファルト舗装がされていた. また, 周辺の土地利用に関係なく, 街区の外側の歩道ではほとんどの部分が赤白の正方形のブロッ

クで舗装されていた. 交差点といった横断歩道がある付近では赤色のみの正方形ブロックで舗装されている歩道が多くみられた.

5. **考察:** つくば市中心部における歩道の舗装状況は, つくば駅などの人が多く利用する施設の付近では, 長方形ブロックを利用した細やかな舗装がなされ, 公共施設沿いではそれぞれの用途を意識した独特の舗装がなされるなど, 歩道沿いの土地利用を意識したような舗装がみられた. しかし, 駅周辺と比べて人通りの少ない街区の外側では歩道沿いの土地利用に関係なく, 単一の舗装である. 以上のことから, 駅や公共施設といった人が多く利用するような施設などに沿う歩道は, 施設との関係性がみられるが, 人通りの比較的少ない街区の外側の歩道では施設との関係性はみられない. また, 施設の駐車場の出入り口といった自動車通過する歩道には, 施設の用途に関係なく耐久性のあるアスファルト舗装, もしくはブロック舗装がなされていた.

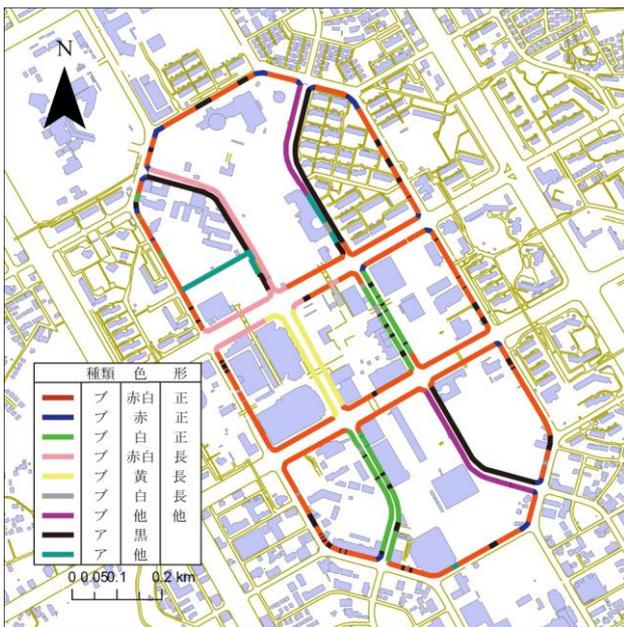


図1:つくば市中心部の歩道の舗装状況  
注)ブ:ブロック 正:正方形 長:長方形  
ア:アスファルト

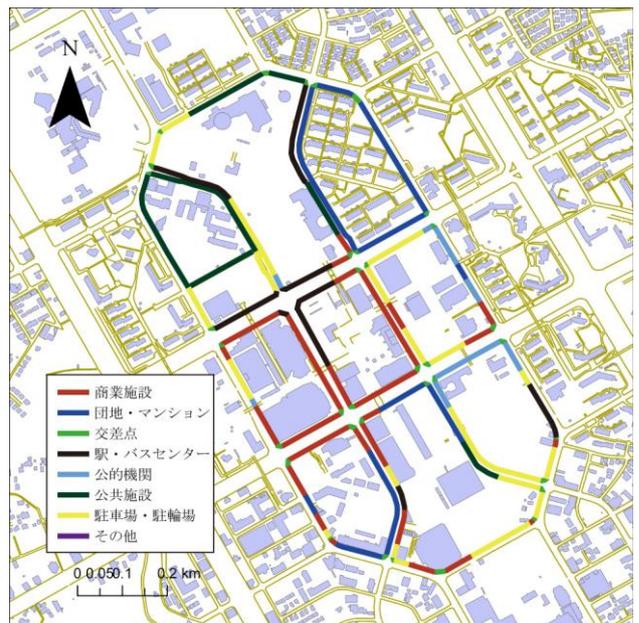


図2:つくば市中心部における歩道沿いの土地利用  
注)駅は地下施設だが,今回は地上施設として図に反映した